

第7回 縄文楽検定（中級編） 解答集

問題	解答	問題	解答	問題	解答
1	b	21	c	41	短冊形
2	a	22	b	42	d
3	c	23	三角形	43	d
4	a	24	b	44	天然アスファルトまたはアスファルトでも可
5	c	25	a	45	a
6	c	26	c	46	なじょもん
7	c	27	抜歯	47	c
8	d	28	c	48	b
9	c	29	b	49	突起
10	a	30	b	50	a
11	c	31	馬高		
12	d	32	b		
13	c	33	近藤篤三郎		
14	c	34	長岡市立科学		
15	d	35	c		
16	竪穴(式)	36	国宝		
17	d	37	岩野原		
18	c	38	c		
19	ベッド	39	c		
20	補修	40	鶏頭冠または鶏冠状		

(解説)

出題に用いたテキストとその略号は、以下のとおりです。

①＜縄文楽検定テキスト＞「縄文文化と火焰土器」（2008）＝「Ⅰ」

②新潟県立歴史博物館編「火焰土器の国新潟」（新潟日報事業社 2009）＝「火焰」

③＜縄文楽検定テキストⅡ＞「信濃川火焰街道 縄文の旅」（2011）＝「Ⅱ」

なお、問題文中、「火炎土器」「火焰土器」「火焰型土器」「火炎土器様式」などの用語が出てきますが、すべて使い分けをしています。

くわしくは、テキストⅠの9ページなどをごらんください。

それでは、主な問題とその解答について簡単に解説します。

問1 4人とも日本の代表する考古学者です。小林達雄氏は、信濃川火焰街道連携協議会の顧問をしていただいている縄文時代研究の第一人者です。

問2 aは笹山前遺跡（新潟市、縄文時代前期、新潟市歴史博物館みなとびあに展示）、bは野首遺跡（十日町市、縄文時代後期）、cは笹山遺跡（十日町市、縄文時代中期、十日町市博物館展示）、dは小坂遺跡（十日町市、縄文時代中期）です。

問12～15 縄文人の食料事情の問題です。問12は、火焰-101 pにあります。縄文人の主食は堅果類で、問12の答の石皿と磨石を用いて粉にして「おやき」や「すいとん」のようにして食べたと考えられています。問13の山形県の押出遺跡のクッキー状炭化物は、おやきが炭の状態になったものと考えられ、現在まで保存されたもので貴重な出土例です。県内でも数例このような出土例があり、問30の岩野原遺跡の出土例もこれに類するものです。また秋に取れた堅果類は、フラスコ状土坑などに貯蔵して一年中食していたと考えられ、問15の根立遺跡のクルミは、縄文人が貯蔵していたものが発芽したと考えられ、話題になりました。

問22 bは、火焰-137 pにありますが、長岡市馬高遺跡から発見された土偶です。

問42 II-3 pにあります。地層の深さによって植物の種類が変化していたことがわかる貴重な事例です。

問44 石鏃を柄に装着するときなどに天然アスファルトが用いられました。天然アスファルトは新潟県などの日本海側を中心に産出しますが、遠く離れた地域の出土品にも付着しているのが確認されています。

問50 縄文土器が現在の日本列島の範囲そのものから出土しており、この地域の地域性が縄文時代にはすでにあったことがわかり、興味深いですね。